特に注意していただきたいこと

機器について守らなければいけない事を記載しています。必ずお読みください。

◎次亜塩素酸ナトリウムの使用および管理

⚠ 警告

⚠ **次亜塩素酸ナトリウムの管理は管理責任者をおき、厳重に管理してください。**

⚠ **酸性の製品やその他の製品と混合・併用はしないでください。**
・有毒な塩素ガスが発生し、人体に悪影響を及ぼします。

⚠ **万一、塩素ガスを吸込んだ場合は、速やかに医師の診察を受けてください。**
咳が出る程度であれば、新鮮な空気の風通しの良い場所で体を楽にして休息させてください。

⚠ **次亜塩素酸ナトリウムの取扱いにあたっては十分な換気を行い、次亜塩素酸ナトリウムが体にかからないように保護具（マスク、ゴム手袋、長靴）を着用してください。**

⚠ **次亜塩素酸ナトリウムを誤って人体、衣服につけた場合は、直ちに大量の水で洗い流してください。**
・そのまま放置しますと、場合によっては塩素ガスが発生する危険があります。

⚠ **万一目に入った場合は、直ちに水道水などきれいな水で目を開けて十分洗い流し、「次亜塩素酸ナトリウムが目に入った」と告げて医師の診察を受けてください。**

⚠ **誤って飲んだ場合は、直ちに多量の水か牛乳、生卵等有機性の高い食品を多量に飲み下し、「次亜塩素酸ナトリウムを飲んだ」と告げて医師の診察を受けてください。**

⚠ 注意

⚠ **次亜塩素酸ナトリウムは、経時変化で殺菌効果が弱くなります。使用期限の過ぎた次亜塩素酸ナトリウムは使用しないでください。また、次亜塩素酸ナトリウムの補充に当たっては必要な量だけ最寄りの薬局店よりお求めください。**
・使用期限：製造日より約１年です。

⚠ **使用後の容器は残留物の有無を確かめ、よく水で洗った後廃棄してください。**
【施設内で廃棄する場合は下記の点に注意して廃棄してください】
・少量であれば排水口より廃棄しても構いませんが、配管を傷めますので多量の水で希釈しながら行ってください。
・浄化槽処理への排水は中和処理を必ず行ってください。
（処理は亜硫酸ナトリウムの薬剤で中和するか、加熱して分解させてください。少量であれば容器などに入れて天日により分解させて廃棄してください。）

⚠ **保管、取扱いについて**
・小児の手の届かないところに保管してください。
・直射日光を避け、涼しいところに保管してください。
・他の容器に移したりしますと品質変化を起こすことがありますので、そのまま保管してください。

◎使用および管理

⚠ 警告
定期的（１ヶ月に１回程度）に、お持ちの温度計を使用して浴槽湯温を測定し、浴槽湯温表示と大きな差がないことを必ず確認してください。 ・温度センサの劣化、故障により実際の温度と表示温度が異なる場合があります。

⚠ 注意
本製品は介護浴槽です。本来の用途(入浴)以外には使用しないでください。 ・けがや機器の故障の原因となります。
熟練者以外は、機器を使用しないでください。 ・けがや機器の故障の原因となります。
本製品を改造しないでください。
万一、本製品が故障したときは、適切な表示（「故障中」など）をして、お買い上げ店または最寄りの弊社営業所に修理をご依頼ください。
浴槽の上に乗ったり、無理な力を加えないでください。 ・けがをしたり、機器の故障や破損の原因となります。
ご使用の前には、機器が正常に作動することを必ず確認してください。

◎設置および使用条件

⚠ 注意
配電盤には必ず漏電ブレーカー（弊社指定の漏電ブレーカー）を設置してください。 **漏電ブレーカーは必ず本体１台につき１個使用してください。** ・感電や火災、機器の故障の原因となります。
操作パネルやカバーの隙間には、故意に水をかけないでください。 ・感電や機器の故障の原因となります。
専門修理技術者以外の人は、機器を分解したり修理をしないでください。 ・けがや機器の故障の原因となります。 **万一、機器が故障したときは、直ちに使用を中止し、適切な表示（「故障中」など）をして、お買い上げ店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。**
接続金具の許容荷重は 1000N（約 100kgf）です。それ以上の荷重を接続金具に掛けないでください。 ・思わぬ事故が発生したり、機器の故障や破損の原因となります。
温泉水、井戸水は使用しないでください。 ・機器のさびや故障の原因となります。特にイオウ分を含む場合は、製品の寿命を著しく縮める可能性があります。
入浴剤は使用しないでください。 ・機器のさびや故障の原因となります。特にイオウ分を含む場合は、製品の寿命を著しく縮める可能性があります。

特に注意していただきたいこと(つづき)

◎使用方法

⚠ 警告

入浴者の入浴姿勢によっては溺れる可能性があります。入浴中は、必ず入浴者の状態に注意をはらってください。

急に高温浴に入ったり冷浴を利用したりすると、軟部組織の緊張が高まり入浴者が異常を訴えることがあります。入浴者に異常がある場合は、直ちに浴槽から搬出するなど適切な措置を講じてください。特に知覚障害者、心肺機能に異常のある入浴者の場合は注意してください。

入浴後反射的に寒気が起ることがありますので、保温に十分注意するとともに十分な休養を取らせてください。

殺菌入浴中、発赤、腫れ、かゆみ、灼熱感、水疱など皮膚に異常を感じた場合は、直ちに入浴を中止し、医師、薬剤師に相談してください。(HK-245L は除く)

入浴時は、入浴者が手すりを持っていることを確認し、入浴者の手や足の位置に注意してから、「上昇」スイッチまたは、「下降」スイッチを押してください。
・浴槽が昇降するとき、手足が挟まれ、けがをすることがあります。

ハンドシャワーを使用するときは、必ず介助者の手で湯温を確認しながら使用してください。
・給湯しながら、併用してハンドシャワーを使用するとき、ハンドシャワーの吐出温度が変動することがあります。
・給湯・給水圧の変動により、ハンドシャワーの吐出温度が急激に変動することがあります。

入浴中に増し湯を行う場合は湯温に注意してください。
・入浴中に増し湯を行うと、火傷をする危険性があります。

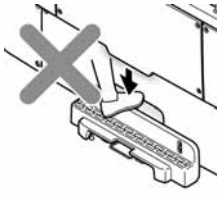
増し湯を行うときは、給湯口付近に手足を近づけないでください。
・増し湯を行っているとき、給湯口付近に手足を近づけると、火傷をする危険性があります。

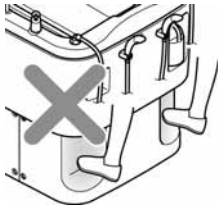
担架の移動中は、絶対に浴槽を昇降させないでください。
・入浴者が転落するなど、思わぬ事故が発生することがある他、機器の故障の原因となります。

⚠ 注意

入浴前には必ず介助者の手で浴槽内の湯温を確認してください。

浴槽の昇降部の下に身体を入れたりしないでください。
・浴槽が下降するとき身体が挟まれ、けがや機器の破損の原因となります。





浴槽内や浴槽の周辺に洗面器やタオルなど不要な物を置かないでください。
・浴槽が下降するとき、物が挟まれ機器の破損の原因となります。

接続金具のガードの上に足を乗せたり、無理な荷重を掛けないでください。
・足が挟まれ、けがや機器の破損の原因となります。

◎使用方法

⚠ 注意

噴流吸込み口フィルターを外したままで、噴流を作動させないでください。
・タオルやガーゼなどを吸込み、機器の破損の原因となります。

噴流吸込み口をふさぐなどしないでください。
・機器の故障の原因となります。

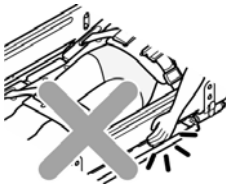
噴流作動中に噴流吸込み口フィルター付近に手足を近づけないでください。
・噴流吸込み口に手足を吸込まれ、思わぬ事故が発生することがあります。

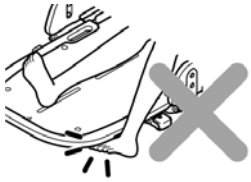
⚠ 警告

〔担架を使用するとき〕

担架を移動させるときは、浴槽とストレッチャーの担架レールが同一線上にあることを確認してからゆっくりと移動させ、必ず担架が確実に浴槽またはストレッチャーにロックされたことを確認してから手を離してください。
・入浴者が転落するなど、思わぬ事故が発生することがある他、機器の故障の原因となります。

担架を移動させるときは、担架の裏側や各部の隙間に手足を入れないでください。
・手足が挟まれ、けがをすることがあります。





〔ストレッチャーを使用するとき〕

ストレッチャーを浴槽へ接続するときは、ストレッチャーを浴槽の接続金具に沿って平行に押しつけ、ストレッチャー動かしてもロックが外れないことを確認してから、ストレッチャーのキャスターを必ずロックしてください。
・担架の移動時に、ストレッチャーが浴槽の接続金具から外れ、入浴者が転落するなど、思わぬ事故が発生することがあります。

入浴者を担架の上に移乗させるときや担架の上で入浴者を洗浄するときは、ストレッチャーのキャスターを必ずロックしてから行ってください。
・ストレッチャーが移動し、思わぬ事故が発生することがあります。

特に注意していただきたいこと(つづき)

◎使用方法

⚠ 注意	
〔担架を使用するとき〕	
❗	担架のバックレストの角度調節をするときは、バックレストが確実にロックされたことを確認してからバックレストから手を離してください。
⚠	担架の使用方法は、「ストレッチャー・担架 取扱説明書」を参照してください。
〔ストレッチャーを使用するとき〕	
❗	ストレッチャーを移動させるときは、入浴者の安全を図るため、ゆっくりと静かに移動させてください。
⚠	ストレッチャーの使用方法は、「ストレッチャー・担架 取扱説明書」を参照してください。

◎禁止事項

⚠ 警告	
⚠	体力の低下、発熱、医師の診断により入浴に適さない病気、けがをしている人や感染者は、絶対に入浴させないでください。

◎保守・点検

⚠ 注意	
❗	機器および部品は、管理者の方が必ず日常点検と定期点検を行ってください。 (「保守・点検」P36 参照)
❗	しばらく使用しなかった機器を再使用するときは、使用前に必ず機器が正常に、かつ安全に作動することを確認してください。

特に注意していただきたいこと(つづき)

◎使用後・日常のお手入れ

⚠ 注意
定められた手順・操作で機器を使用前の状態に戻した後、電源を切ってください。
機器は、次回の使用に支障がないよう必ず清掃してください。 **通常は柔らかい布で水拭きしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をスポンジや柔らかい布などに染み込ませて軽く洗い、水でよく流してください。** ・トイレ用洗剤、酸性・アルカリ性・塩素系洗剤、有機溶剤(ベンジン、シンナー、ガソリン、アルコールなど)およびクレンザー、たわしなどの使用は機器を傷めますので絶対にやめてください。 ・直接熱湯をかけて洗わないでください。 ・強く押さえたり擦ったりすると、部品の故障や破損の原因となります。 ・内部に水が入り、機器の故障の原因となるので浴槽外装や操作パネル、接続金具等には、故意に水をかけないでください。 ・素手で清掃を行っていると、突起物などに触れて思わぬけがをすることがあります。機器の清掃は、必ずゴム手袋などの保護具を着用して行ってください。 ・機器の汚れや故障の原因となるので、機器底部の床面を清掃するときは、故意に機器の内部に水を掛けないように注意してください。
付属の薬液（次亜塩素酸ナトリウム）を使用して、1ヶ月に1回以上装置の殺菌を行ってください。 **(「機器殺菌の仕方」P29 参照)**
指定の洗浄剤（酸素系漂白剤）を使用して、半年～1年に1回程度、装置配管内の清掃を行ってください。 **(「機器洗浄の仕方」P32 参照)**
使用後は次回の使用に支障がないよう、各部の点検、清掃を行ってください。
使用後は、噴流吸込み口フィルターのゴミなどを取り除いてください。 **(「噴流吸込み口フィルターの清掃の仕方」P27 参照)**
使用後は必ずフィルターケース内の残水を捨ててください。(HK-245G のみ) **(「ろ過フィルターの清掃の仕方」P28 参照)**
支柱表面には、浴槽側パッキンとの滑りを良くするため、潤滑剤を塗布しています。 **清掃するときは、支柱表面の水分を軽く拭き取る程度にしてください。** ・浴槽が支柱に引っ掛かり、事故や故障の原因となります。
機器の清掃時、高圧洗浄機は使用しないでください。 ・機器の電気部品や機構部の故障や破損の原因となります。